

平成 29 年度 青年部実践研修 I

『保育の働き方改革』～働きやすい職場環境をみんなで作ろう～

平成 29 年 9 月 27 日(水)熊本市(現代美術館アートロフト)にて、尚絅大学短期大学部幼児教育学科准教授の柴田賢一氏を講師にお招きし、青年部実践研修 I『保育の働き方改革～働きやすい職場環境をみんなで作ろう～』をテーマに講演していただいた。

今回の研修は、若手保育者の指導や園全体の雰囲気作りの一翼を担う中堅保育者の役割や課題を考え、資質の向上を図ることで、やりがいのあるよりよい職場環境の構築をすることを目的としており、保育士経験 5 年以上で若手に指導やアドバイスを行う者を対象としたものだ。

講演はまず保育所にとって大切なこと、『園の共通理解』をどうやって作るかというところから始まり、新たなアイデアを生み出すための方法の一つであるブレインストーミングや、それらによって得られた発想を整理し、問題解決に結びつけていくための KJ 法(川喜田二郎氏考案)が紹介された。

また園での研修としては、ラーニング・ストーリーなどの記録やドキュメンテーション作成を通し保育計画や園での『共通理解』を深める方法、情報を可視化し職員間だけでなく保護者に対しても子どもの理解を情報共有することの必要性について講演された。

後半の部では、実際に先に紹介されたブレインストーミングと KJ 法を用いて『新人あるある』をテーマに新人保育者の理解を深めるグループ討議が行われた。新人保育者への理解というと、子どもへの理解とは違い職員会議などで議論されることがほとんど無い。各グループの様子を見ていると、初めは「若い人はわからない」とネガティブな考えだった方も、様々な意見を聞いているうちに「不器用でも一生懸命子どもと向き合っている」「私たちも新人の頃はそうだった」など新人保育者の良い面に気づくことができ、新人の理解についてポジティブに捉えることができるようになった。

今回の研修を通し、職員会議などで職員間の経験や力量の違いにとらわれることなく、参加者全員が参加でき自然な形で考えを引き出してくれるこの技法は、子どもに対する新たな発見や理解がもたらされるだけにとどまらず、テーマである『働きやすい職場環境づくり』という点においても、楽しい雰囲気でも話し合うことで職員同士のコミュニケーションを促進したり、チームワークを高めたりするのにとても役立つということがわかった。

